

芸術とテクノロジー 融合考える



アートと科学、技術、産業が融合することで生み出される創造的価値について考えたシンポジウムで報告する土佐京都大教授(京都市左京区・京大)

京大などで国際シンポ

芸術と科学や産業の融合について考える国際シンポジウム「アートのイノベーション」がこのほど、京都市左京区の京大などで開かれた。国内外の芸術家や研究者、2025年大阪・関西万博の開催担当者が、互いに刺激し合うアートとテクノロジーの創造的な価値について語り合った。京大総合生存学館と英ロンドン大ゴールドスミス校コンピューティング学部が開いた。万博に関する講演では、経済産業省の東哲也氏が現在進んでいる

地域経済活性化の起爆剤としたい」と語った。

芸術家の土佐尚子京大教授は、米ニューヨークのタイムズスクエアで長年行われている大量の電子掲示板に芸術作品を映し出すプロジェクトで、自身のデジタルアートを上映した実践を報告。「かつては物騒と言われた場所だったが、芸術の力で今は夜も多くの人が歩くようになった。アートのイノベーションの一例だ」と強調した。AI(人工知能)を使った芸術や日本企業の取り組みについての報告や討論会、建仁寺(東山区)でのアート作品の展示も行った。

(山田修裕)